

2022年度 特定非営利活動法人浦和スポーツクラブ通常総会 議事録

- 1 日時 令和4年6月4日(土) 16時00分～18時10分
- 2 場所 クラブハウス
- 3 出席
正会員 10名
出席 8名 (小野崎研郎、梶谷千恵子、小川貴、片倉藍、
清水恵二、遠山茂、金木貴子、内村久子)
委任状 2名 (木村曜子、舟山勝明)
正会員以外 6名 (小野崎さおり、大倉英樹、望月こず江、
飯高一郎、横川孝一、仲原尚美)
- 4 挨拶
会長欠席のため、小野崎研郎理事長より挨拶をいただいた。
- 5 議長選出
定款第28条により、出席した正会員の中から議長を選出し、小野崎研郎理事長が選出された。
- 6 議事録署名人選出
定款第32条2項に基づき、出席者の中から梶谷千恵子氏、金木貴子氏の2名を議事録署名人として選出した。
- 7 議 事
第一号議案 2021年度事業報告
第二号議案 2021年度決算報告及び監査報告
第三号議案 2022年度事業計画(案)
第四号議案 2022年度予算案(案)
第五号議案 役員の補充と運営体制について
- 8 議事の経過概要及び議決結果
議事の開始に先立ち、定足数の確認を行った。
正会員数10名のうち、過半数以上となる10名の参加(出席8名、委任状出席2名)を得ていることから、総会が成立することを確認した。

第一号議案 2021年度事業報告

資料に基づき、小野崎理事長より2021年度の概要報告がなされた。また、出席者により担当しているプログラムについて報告がなされた。総論として2021年度の特徴的なできごとを小野崎理事長より報告がなされた。

- ・総括表に基づき、クラブ事業ならびに関連事業への参加等について、月を追って説明がなされた。昨年度もコロナの影響でイベント等中止になったものもあったが、少しずつ戻ってきたものもあった。理事会も毎月行ってニュースも毎月発行した。
- ・会員数について、コロナの影響で昨年一昨年と大きく落ち込んでいて、戻っていないのでこれを何とかしないといけない。
- ・事業計画と成果について、新しいことができなかった。
- ・プログラムについては徐々に戻ってきていた。
- ・会員確保の取り組みも皆さんにご協力をいただいたが、あまり成果が見られなかった。
- ・事務局とスタジオの家賃は昨年10月から今年9月までの1年間3割引としていただいた。
- ・耐震工事の関係で3月から浦高体育館が使えなくなってしまい、星空スポーツ広場ができなくなってしまったのが大きい。
- ・本太中チャレンジクラブは、サッカーとバドミントンを実施した。
- ・部活動支援の地域会議は少しでき、SC-STERNとの連携も4月から始まった。
- ・パラスポーツは、車椅子バスケットボールはできたが、ブラインドサッカーはできなかった。
- ・駒場体育館の自主事業については、テニスはすっかり定着した。
- ・彩の国SCネットワーク事務局もどうにかできている。
- ・卓球について浦高体育館が使えなかったため活動できていない。

【各プログラム担当から】

1 チャレンジクラブについて（飯高氏、横川氏）

バドミントンは、10数名のやる気のある生徒が参加して、確実に成果を上げている。個人競技のためもう少しコーチを増やしてほしい。個々の能力は向上し上手になっている。

サッカーは、成田コーチ、小田コーチの両氏は顧問が変わって指導方針が変わったためやりづらかった。

2 サッカーについて（遠山氏、大倉氏、望月氏）

スーパーシニアは、60歳以上の会員が41名おり、ストレッチ、ウォーミングアップ、基礎技術、ゲームを楽しんでいる。けがをしないように、人工芝のグラウンドを確保したい。

生涯は、浦和高校のグラウンドで毎週土曜日に活動をしている。ぜひ人工芝化にしていただきたい。

ガールズサッカーは、毎週木曜日に駒場競技場、本太小学校で活動しているが小学生の集まりが悪く会員が少なく苦勞している。土曜日の星空では中学生が集まり始めている。

3 テニスについて（梶谷氏、内村氏）

大人のテニスは、アットホームな雰囲気で行われており、さいたま市テニス協会のエンジョイクラスにも参加している会員さんが増えてきた。

子どものテニスは、学年が変わると人数が変わってしまうので、新規会員確保が難しい。

4 フィットネスについて（金木氏、片倉氏）

シニアヨガのクラスは、10年以上経過し高齢になってきている。

のびのびスポーツ広場は、人数が増えたため小学生クラスを二分割している。コロナ感染予防対策のマスクは、苦しいときは熱中症予防のため外すように指導している。

5 30周年事業について

記念誌が昨年度完成しなかったため、今年は完成させる。

第二号議案 2021年度決算報告及び監査報告

資料に基づき、小野崎理事長より報告がなされた。

- ・収入総額は約2,366万円となりました。予算では約2,219万円を見込んでいましたので150万ほど多くなりました。昨年度より約300万円の減収です。
- ・予算で見込んでいなかった事業復活支援金100万円を受給した。
- ・会費等の収入は約2,153万円となり、予算の2,158万円とほぼ同じになりました。会費収入だけをみると前年度1,721万円から432万円増加しています。
- ・今年度はスポーツ庁事業を受託せず自主的に継続しましたが、まん延防止などにより十分な活動はできませんでした。
- ・支出は、2,362万円で、予算の2,495万円よりも約133万円少なくなりましたが、これは予算立案時には見込んでいなかった家賃の一時的な値下げやまん延防止措置による活動の自粛によるものです。
- ・以上の結果、単年度の経常収支で約3万円の黒字となりました。予算では276万の赤字としていたので、マイナス幅は大幅に縮小されました。
- ・説明後、監査報告が書面によりなされた。

以上の提案・説明後、第一号議案・第二号議案について、出席者全員の賛成により承認を得た。

第三号議案 2022年度事業計画

資料に基づき、小野崎理事長より年間事業計画について提案・説明がなされた。

- ・今年では会議・行事等が例年とあまり変わらないが、イベントを復活させようと、8月28日（みんなのスポーツ・健康フェア）10月23日（バドミントン・テニスミニ大会）1月15日（みんなのスポーツ・健康フェア）を実施予定である。
- ・6月中旬より、スポーツ庁の事業（誰もが気軽にスポーツに親しめる場づくり総合推進事業）を受託する予定である。
- ・浦和駒場体育館の指定管理が今年度いっぱい、8月に次年度以降の選定があるのでそれに向けて準備する。
- ・見沼のグラウンド整備の話が復活してきた。

（会員確保のための活動）

- ・PRチラシの配布予算がスポーツ庁事業により取れ、毎月10000部ポスティングできる。クラブの宣伝も入れて会員確保につなげたい。
- ・ホームページをスマホでも快適に閲覧できるように変えていく。
- ・全てのプログラムにおいて会員を増やすために広報活動と体験会等の開催に、これまで以上に取り組む。

【事業の取組方針】

I プロジェクト

1) 中学生のスポーツ環境向上プロジェクト

- ・これまでと同様にチャレンジクラブの実施、バドミントンのファーストステップ講習会の実施、中学女子サッカー支援プロジェクト：S C — S T E R Nとの連携の継続

2) 「誰もが気軽にスポーツに親しめる場づくり総合推進事業（学校体育施設の有効活用推進事業）」

- ・教育委員会、市スポーツ振興課、地域関係者にも会議に参加してもらい、問題意識の共有を進め、地域に広く広報を行いクラブの取組みの周知を図る。

3) パラ種目体験・交流事業

- ・「誰でもJOIN」を推進するため、関連団体と連携して、体験会や交流会の開催にむけて取組み、8月28日（日）ブラインドサッカー埼玉T.Wings（調整中）、1月15日（日）車いすバスケットボール埼玉ライオンズと連携し実施していく。

4) 見沼スポーツパークプロジェクトの再開

- ・2012年に取組んだ見沼田んぼ公有地の有効活用「緑のスポーツ広場」について、市のセントラルパーク構想の進展を踏まえて、取組みを再開している。

II 通常事業

- 1) クラブメンバーシップを育み仲間づくり、社会参加を実現する。
- 2) 広報・PRに力を入れる。
- 3) さいたま市内の地域スポーツクラブと連携し、中学校部活動の地域移行にむけた取組みを始める。
- 4) 駒場体育館指定管理事業の充実・指定管理の継続にむけた取組み、地域事業を契機として、地域のネットワークづくりを進める。
 - ・ 指定管理者の契約更新年度になるため、継続契約にむけて努める。
- 5) スポーツ用品リユースプロジェクト
 - ・ 例年通りアジアアフリカと共に歩む会に協力する。
- 6) その他
 - ・ 彩の国SCネットワークの事務局を継続する。
 - ・ スポーツ推進委員や少年団など地域のスポーツ機関・組織との連携を高める。
 - ・ 地域課題の解決に取り組む団体や機関との連携も進める。
 - ・ にしにこフードパントリーへの協力を継続する。
- 7) プログラム
 - ・ サッカー、テニス、フィットネスについては例年通り進める。
 - ・ 卓球は、再開にむけて体制構築を検討する。
 - ・ 星空スポーツ広場参加者にクラブ事業への参加を促す。
 - ・ スポーツ鬼ごっこの家族参加コースの充実を図る。

以上のことについて提案・説明が行われた。

第四号議案 2022年度予算(案)

資料に基づき、小野崎理事長より予算案の提案があった。

- ・ 昨年度の決算より今回は、事業が多い分額を多く見積もっている。
- ・ totoの248万円とスポーツ庁の500万円と会員増の200万円を合計して約1000万円の収入増である。
- ・ 80万円ほどの黒字を見込んでいる。

以上の提案・説明後、第三号議案・第四号議案について、出席者全員の賛成により承認を得た。

第五号議案 役員の補充と運営体制について

資料に基づき、小野崎理事長から提案・説明があった。

退任理事及び新理事、役員は以下のとおりとなり、第五号議案について、出席者全員の賛成により承認を得た。

		(昨年度)		(今年度)
退任理事				
	木村 曜子	理事	→	退任
	舟山 勝明	理事	→	退任
新任理事				
	篠原香魚子	理事	→	新任
	山根 啓嗣	理事	→	新任
	飯高 一郎	理事	→	新任

2022年度の役員体制

■会長

塩野 潔

■理事（任期 2021～2022年）

- 1 小野崎研郎（サッカー 一般会員） / 理事長
- 2 梶谷千恵子（テニス指導者） / 副理事長
- 3 小川 貴（事務局長） / 副理事長
- 4 遠山 茂（サッカー SS 広場指導者）
- 5 清水 恵二（サッカー 一般会員）
- 6 内村 久子（テニス指導者）
- 7 金木 貴子（フィットネス指導者）
- 8 篠原香魚子（フィットネス指導者）
- 9 飯高 一郎（バドミントン指導者）
- 10 山根 啓嗣（スポーツ鬼ごっこ会員保護者）
- 11 片倉 藍（クラブマネジャー）

■監事

- 1 三戸 一嘉（前県体育協会副会長兼専務理事）
- 2 柴崎 栄一（弁護士）

以上をもって、全ての議事を終了し散会した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

令和4年6月10日

議 長 印

議事録署名人 印

議事録署名人 印